



## 高校野球のマナーとルールを学ぼう (第17回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。  
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

### マナー編 ベースコーチがプレイに「セーフ」のジェスチャー?

一塁のベースコーチが、プレイに対して”セーフ”のジェスチャーをするのを見かけます。際どいプレイに、「思わず」なのでしょうが、これは問題ないのでしょうか。



プロアマを問わず、日本の野球では必ず見られる光景です。時には走者までがジェスチャーしていることもあります。特別に問題を感じない人が多いかもしれませんが、正規の判定者がいるにも関わらず、別の判定者がいるような状況を、たとえ何気なくだとしても作り出してはいけません。

例えば、横断歩道で交通整理の警察官が、「今は待機」と静止しているのに、誰かが「大丈夫、渡れ!」と煽(あお)ったら、群集心理も手伝って取り返しがつかなくなるでしょう。  
高校野球では規則書表示の「審判員」ではなく、「審判委員」として「委(ゆだ)ねる・委(ゆだ)ねられる」ことの意味を大切にしてきた伝統があります。試合前の本塁を挟んだ両チームと審判の挨拶は「F精神」の確認と同時に、「審判を任せる・任せられること」への緊張の場面なのです。高校野球というスポーツは、日常の大切なことを試合や練習を通して学び、研鑽(けんさん)する場ではなかったのでしょうか。そのためにも、人に任せることの謙虚さ、任せられることへの尊さを共有したいものです。「コーチに出たら、どんなプレーにも”セーフ”をやれ」などと教えている指導者のいないことを願います

### ルール編 アピールのタイミング…権利の消滅とその誘発行為?

打者がワンバウンドで外野席に入る安打で二塁に達しています。打者走者の一塁空過を確認していた一塁手はプレイ再開後、アピールの送球をするよう投手に声を掛けました。ところが投手が一塁に振り向いて聞く動作をするや、二塁走者が三塁方向にスタートする様子を見せたので、投手は反射的に二塁に送球しましたが走者の帰塁はセーフ。その後、守備側は改めて一塁でアピールをしましたが審判員に受け付けてもらえませんでした。これはどうして?

アピールを行うための要点を整理しましょう。打球がワンバウンドで外野席に入った時点でボールデッド(試合停止球)の状態になっています。球審から新しいボールを受けた投手がプレートに着き、改めて”プレイ”が宣告されるまではアピールはできません。「…アピールが行われているときは、ボールデッドではない」(規則7・10原注)ので、ボールデッド中にアピールがあっても、審判員は「タイム中のアピールは受け付けられない」と、伝えることになっているのです。

では、上記のプレイで一塁でのアピールが受け付けられなかったのは何故でしょうか。

規則7・10「本条規定のアピールは、投手が打者へ次の一球を投じるまで、または、たとえ投球しなくてもその前にプレイをしたりプレイを企(く)わだてるまでに行わなければならない。」と規定されています。つまり、この場合は、投手が二塁に送球したことが「プレイを企(く)わだてた」ことになるため、その時点でアピール権は消滅してしまったのです。走者の一塁空過を確信しているが瞬間にアピールが出来なかったのが悔やまれます。

ところでこの時、もし二塁走者が「アピール権の消滅」をねらってわざと三塁へ向かうような動きをしたのなら、「規則の悪用」以外の何ものでもありません。何らかのペナルティを課してでも厳しく対処したい思いです。

**「スポーツに小利口(こりこう)は無縁」と肝に銘じましょう!**

